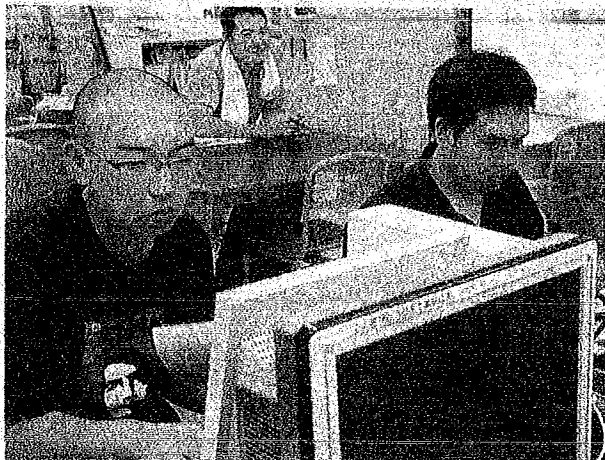


障害者の就労移行支援事業



パソコンを使って就職情報を探す利用者
＝尾張旭市瀬戸川町のジョブウェルで

障害者の雇用割合を1・8%とする障害者雇用促進法が改正された。対象企業が従業員数二百人以上に拡大されて一年以上がたった。民間企業の達成率は低いままだが、障害者の就労意欲は高まる一方だ。それを後押しするのが、障害者自立支援法に基づいた「ジョブウェル」の「就労移行支援事業」。企業への就職を順調にかなえる事業所もあるが、周知不足や学校現場との連携不足など、課題も多い。

(松本浩司)

瀬戸市と尾張旭市中で開する、近隣で草分け「ジョブウェル」。専ら就労移行支援事業を展開する株式会社「ジョブウェル」。専門研修を受けた職員が支援し、利用者は施設外では検品業務やマンシヨンプリント、施設内では軽作業訓練や就職準備に励んでいる。尾張旭市瀬戸川町の同社事業所で十九日、履歴書の作成に励んでいた知的障害のある荒木達哉さん(三〇)は「七月から面接対策をしてきて、自信がついてきた」と話す。製造業への就職を希望している。

同社は二〇〇七年に

企業、学校と連携強化を

特報

業者「制度の認知度向上も課題」

創業し、これまで三十人が製造業やクリーニング業、物流業の一般企業に就職した。運営自体は順調だが、就職者が増えることで、常務に欠員が出る「シレンマ」を抱えるようになった。

この事業所の横山健志所長(三〇)は「就職者が増えてきたゆえに、入学生より卒業生の方が多い状態」と表現する。一年度は七人が新たに入所したが、卒業生が四人就職。さらに四人以上が卒業した。同市社会福祉課の神沢嘉顕さん(三〇)は「学校と行政、受け入れ先の民間が連携をつていて企業は全国で半分の指導もあり、企業の要になる」と話している。

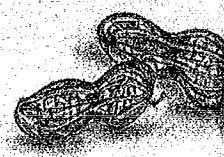
尾張旭市でブランド化が進められているイチシクの「初なり収穫祭」が二十日、同市西の野町の畑で開かれた。

市観光協会主催。今年には春先の低温で成長が遅れたものの、今月中に収穫のピークを迎え、十月いっぱいまで作業が続く。この数日で糖度が高まり、完熟に近づいてきた。

この日は谷口幸治市長が「全国へぜひ普及していただきたい」とあいさつし、ほ場に入って朝どり完熟イチシクの実をもぎ取った。

市内産のイチシクは

なごや東



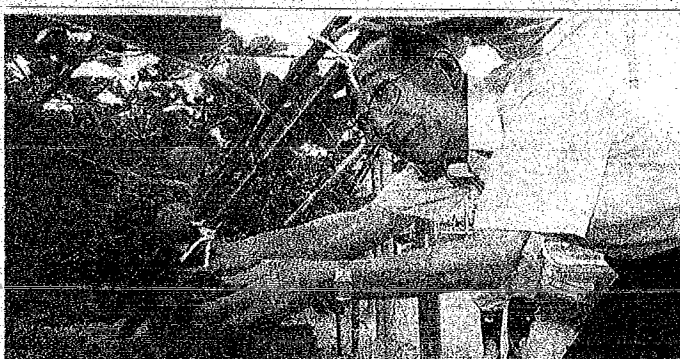
落花生
竹内 みち子
新象作家協会所属

ニュース、情報は下記
社会部
052-231-1650・5919
Eメール
shakai@chunichi.co.jp

瀬戸支局 〒489-0800
瀬戸市共栄通4-8
0561-82-3121 Fax 82
日進通信部 〒470-0111
日進市栄2-214
0561-74-2002 Fax 74

春日井支局
0568-81-2036 Fax 81
犬山通信局
0568-61-2612 Fax 61
小牧通信局
0568-72-1177 Fax 72

中日新聞へのご意見は
読者センターへ
052-221-0800 Fax 221-
Eメール
center@chunichi.co.jp



市内科、
労務病院(一)
尾(一) 尾
61(54)
森園科(瀬
(85) 64
【豊明市
休日診療所
休診1時間
562(93)
【日進市
小児科・休
9(後4:
あり)日
1(73) 7

ワインや
工品にお
る。収穫
も紹介さ
協会関係
イチシクを
シクたい
古屋産業